

洗足学園音楽大学

フレッシュマン・ウインド・アンサンブル演奏会

*Freshman wind ensemble
concert*

2021年7月11日(日)

14:30 開演 (14:00 開場)

洗足学園 前田ホール

主催： 洗足学園音楽大学・大学院

— Message —

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

フレッシュマン・ウインド・アンサンブルでは、世界的に続くコロナ禍の中、授業、リハーサルのなかで、できる限りの感染症対策を施しつつ、一年生同士のアンサンブルをすることにより、連帯感や向上心を高め合いながら、アンサンブル能力の育成、合奏における音楽理解を深めることを目標に努力してまいりました。

本日のプログラムは、生誕100年を記念してアーノルドの作品をはじめとし、ホルスト、ウォルトン、スパーク、グレイアムと、イギリスの巨匠たちが繰り広げてきた作品の数々をあつめてお届けします。新鮮で魅力的なサウンドを、フレッシュマンの情熱とともにお送りできればと思っています。

最後に、まだまだ、予断を許さない状態が続くコロナ禍の折、演奏の機会をいただき、ご尽力くださった関係者のみなさまに、心より御礼申し上げます。



フレッシュマン・ウインド・アンサンブル 企画運営責任者
瀬尾 宗利

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

— Program —

W.ウォルトン／戴冠行進曲「クラウン・インペリアル」(編曲：W.デュソイト)

William Turner Walton / Crown Imperial

P.スパーク／陽はまた昇る

Philip Sparke / The Sun Will Rise Again

M.アーノルド／組曲「第六の幸福をもたらす宿」(編曲：瀬尾 宗利)

Malcolm Arnold / The Inn of the Sixth Happiness

第1楽章:ロンドン・プレリュード 第2楽章:ロマンティックな間奏曲 第3楽章:ハッピー・エンディング

1mov.London Prelud 2mov.Romantic Interlud 3mov.Happy Ending

G.ホルスト／吹奏楽のための第二組曲

Gustav Holst / Second Suite for Military Band

第1曲:行進曲 第2曲:無言歌 第3曲:鍛冶屋の歌 第4曲:ダーガソン幻想曲

I.March II.Song Without Words III.Song of The Blacksmith IV.Fantasia on The "Dargason"

P.グレイアム／巨人の肩に乗って

Peter Graham / On the Shoulders of Giants

I.ファンファーレ II.エレジー III.ファンタスティック・ブリランテ

I.Fanfares II.Elegy III.Fantasia Brillante

— Program Notes —

W.ウォルトン(1902~1983)／戴冠行進曲「クラウン・インペリアル」(編曲：W.デュソイト)

W.ウォルトンはオールダム出身で、20世紀のイギリス音楽を代表する作曲家の一人であり、独学で作曲を学び、管弦楽曲をはじめ映画音楽まで多岐にわたるジャンルにおいて作品を書いている。

この作品は『戴冠行進曲』というように、ウォルトンがイギリス国王ジョージ6世の戴冠式のために作曲された。伝統的なイギリス風コンサートマーチのスタイルで書かれており、木管のファファーレ風のメロディーからはじまり、その後すぐに金管が加わる。そして音楽が次第に静まり荘重な trio に入っていくと、美しく優雅な音楽はホール全体を包み込み、終盤は今までの集大成と言えるような豪華で堂々とした空気感を醸し出し曲が終了となる。華やかで上品なサウンドはウォルトン特有の作品だともいえるだろう。

(新井 楓花 駒田 雅乃 薄井 萌々子)

P.スパーク(1951~)／陽はまた昇る

P.スパークはロンドン出身で、吹奏楽やブラスバンド、ファンファーレバンドなどの作品を作曲する代表的な人物である。この作品は、東日本大震災への支援を目的として書かれた。もともとこの楽曲はノルウェーのグレンランド国際ブラスフェスティバルから委嘱された「カンティレーナ」（金管バンドのための作品）を吹奏楽用に書き直し、「日出づる国」に敬意を表し新たな曲名を付したものとなった。また、この著作権料は日本赤十字社を通して全て被災地に寄付される。

フルート、ホルンの美しいハーモニーから始まり、アルトサクソ、テナーサクソとソロが移り変わり、全体の響きへと誘う。気品にあふれ、おだやかな表情の中に希望を感じさせ、その感動を堪能することができる作品である。

(丸山 結希帆 パンジュンリャン)

M.アーノルド(1921~2006)／組曲「第六の幸福をもたらす宿」(編曲：瀬尾 宗利)

M.アーノルドはノーザンプトン出身で、9つの交響曲をはじめ、管弦楽作品はもとより映画音楽まで、多岐にわたるジャンルの作品を書き、近代イギリスを代表する作曲家である。

この作品は、元々映画音楽として作曲されたものを、1991年アーノルドの70歳を記念して弟子のクリストファー・パルマーによって組曲として出版され、メロディメーカーとしてのアーノルドの才能が色濃く反映された作品となっている。冒頭にあらわれる2拍3連を含む「決意のテーマ」と、優美な「愛のテーマ」の2つの主題が各楽章の随所に現れ曲が展開される。また、第2楽章では、中国の音階を思わせるような抒情的な旋律がフルート、サクソによって奏でられ、第3楽章においては、マザーグースのうたの「This Old Man」が登場し、作品に彩りがくわわる。壮大なファンファーレ、美しいアンサンブル、荒々しいテーマ、軽快なマーチ等、場面毎に音楽がどんどん変化していき、クライマックスでは「愛のテーマ」が情熱的に再現されフィナーレに向かう。

(新井 楓花 駒田 雅乃 パンジュンリャン)

G.ホルスト(1874~1934)／吹奏楽のための第二組曲

G.ホルストはチェルトナム出身で、イギリス音楽の代表格の作曲家である。管弦楽作品で有名な組曲「惑星」などをはじめとし、吹奏楽の作品なども含め、たくさんの作品を後世に残している。

この作品は、イングランドの民謡や舞曲などの素材をもとに作曲され、第1楽章「マーチ」、第2楽章「無言歌」、第3楽章「鍛冶屋の歌」、第4楽章「ダーガンソンによる幻想曲」の4曲で構成されている。

第1楽章は、「グローリシャーズ」の旋律、「スワンシー・タウン」と呼ばれる水夫の歌「クローディ・バンクス」が用いられ、イギリス風のマーチになっている。

第2楽章は、冒頭にクラリネットのソロからはじまり、このフレーズは「第一組曲」へのオマージュを感じさせるメロディーで、とても叙情的な印象を与える音楽である。また、この曲は病室にいる女性が愛する人に祈りを捧げるとというのが曲の題材になっている。

第3楽章は、陽気な鍛冶屋の歌が素材となっており、金管楽器の愉快的な旋律からはじまり、そのあと木管楽器も加わり全体で大きなうねりをつくっていく。低音楽器の動きは金槌の音を模倣しているようである。

第4楽章は、ダーガンソンという循環旋律が永遠と反復され、クライマックスに向かうと「グリーンズリーブス」が対旋律としてあらわれる。そして、最後はピッコロのソロと共に曲が終わる。

(薄井 萌々子 パンジュンリャン)

P.グレイアム(1958~)／巨人の肩に乗って

P.グレイアムはスコットランド出身の作曲家で、吹奏楽やブラスバンドのための作曲家の中の代表的な人物である。彼はエディンバラ大学で作曲を専攻し、日本の吹奏楽コンクールなどでも注目された「ハリソンの夢」などの名作を書いている。

この作品のタイトルである「巨人の肩に乗って」は、近代物理学の祖アイザック・ニュートンが1676年2月5日、ロバート・フックに宛てた手紙に書かれている「If I have seen further it is by standing on the shoulders of Giants.(もし私が遠くを見ていたとするなら、それは巨人たちの肩の上にあったからだ。)」という一節からとられている。一般的には「巨人の肩に乗る」は「偉大な先人達、またはその功績の上に立つ」という意味の比喩表現で、それを音楽に反映させてこの作品となった。

各楽章ともに、アメリカで金管奏法の多様性を高めてきた伝説的金管プレイヤーの巨人たちへの敬意を込めて書かれている。

第1楽章は、シカゴ交響楽団のブラスセクションのトリビュートとして、ブルックナーの交響曲8番の主題を用いて曲が展開される。

第2楽章では、ジャズを生み出したアメリカへのエレジーで、マイルス・デイビス、トミー・ドーシーに思いを馳せて、黒人霊歌が重要な役割を演じる。

第3楽章は、かの有名なスーザバンドのヴィルトーゾたちへの尊敬の願いをこめて、テクニカルかつブリリアントな響きの中、劇的なコーダで曲を閉じる。

(新井 楓花 駒田 雅乃 パンジュンリャン)

指揮 吉田 行地

ルーマニア国立サトゥ・マーレフィル、ルーマニア国立トゥルグムレシュ交響楽団、札幌交響楽団、東京交響楽団、名古屋フィル、大阪フィル、広島交響楽団、九州交響楽団、大阪市音楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、東京吹奏楽団、広島ウインドオーケストラなどに客演。2004~2010年 NPO 法人中部フィルハーモニー交響楽団指揮者。また、劇団四季のミュージカル、J-POP 歌手オーケストラコンサート、「ヴァイオレット・エヴァーガーデン」オーケストラコンサート等、多彩な音楽活動を行なっている。

吹奏楽では 2015 年吹奏楽コンクール課題曲参考演奏の収録や、「ニュー・ウインド・レパートリー」等、大阪市音楽団（現 Osaka Shion Wind Orchestra）との CD 制作が多い。早稲田大学を経て、1996 年洗足学園音楽大学付属指揮研究所修了。指揮を秋山和慶、河地良智、尾崎晋也、湯浅勇治の各氏に師事。

日本大学芸術学部准教授、洗足学園音楽大学、桐朋学園大学非常勤講師。



フレッシュマン・ウインド・アンサンブル

Senzoku Gakuen College of Music Freshman Wind Ensemble

「フレッシュマン・ウインド・アンサンブル」は、1年生のみで構成された、若さ溢れるウインド・アンサンブルである。爽快で物怖じしないパワフルな演奏が身上。吹奏楽の代表的なオリジナル作品から、アレンジ作品まで幅広いレパートリーに取り組み、合奏の基本や表現技術を習得すべく日々研鑽を積んでいる。これまでに客演指揮として汐澤 安彦、山下 一史、ヨハン・デ・メイ、ヤン・コベル、ロレンツォ・デラ・フォンテ等、国内外を代表する指揮者を招聘している。



フレッシュマン・ウインド・アンサンブル

前期演奏会 メンバー表

Conductor	吉田 行地				
Concertmistress	高橋 美乃				
Flute	岡田 理奈	鎌仲 思実	下園 采奈	鈴木 びあ乃	
	ラングエン	パオチャン	中村 愛美	末永 愛翔	村松 なごみ
Oboe	入谷 栞	橋本 あみか			
Clarinet	有田 春花	石山 穂乃花	宇佐美 碧	薄井 萌々子	大竹 彩音
	鈴木 潤	曾山 舞美	高橋 美乃	松崎 稀菜	山口 真央
	近野 千昌*	刀田 大生*	山形 珠慧*		
Bassoon	殿村 和也*	南齋 侑花*			
Saxophone	阿部 友花	新井 琴乃	新井 楓花	石川 堅大	伊藤 有莉愛
	植木 里花	加藤 裕貴	金丸 璃奈	川崎 俊裕	木佐木 桃花
	北島 実幸	キュウ キ	ギ キセン	熊木 萌奏	桑原 尚紀
	駒田 雅乃	近藤 空	坂地 迅斗	泉波 陽美	高矢 真優
	田所 恋結	寺尾 作蔵	西田 大也	新田 乙葉	平野 未紗
	山岸 芽以	山田 倫子	吉川 佳希	吉田 朋諒	
Trumpet	秋山 凜音	稲田 菜摘	江浦 蓉蓉	太田 和生	小松 美羽
	齊藤 雄太	清水 愛和	高橋 翔	野村 日菜乃	福山 桃花
	星野 花織	正木 航	松尾 知樹	宮澤 恵美	森本 優生
	吉井 絵理果	リン コウリャク			
Horn	植田 香帆	高良 知里	山田 日香流	パン ジュンリャン	
	井澤 滉*	大塚 季*			
Trombone	石澤 百蘭	鶴飼 輝	遠藤 愛	川上 奏太郎	神田 拓海
	近藤 慶一	中田 夏葵	永野 宏弥	本間 千尋	松田 真凜
	水梨 翔太	森田 堅人			

Euphonium	荒木 優奈	関口 嬉架			
Tuba	金子 優也	櫻井 希有	佐藤 凧紗	鈴木 颯	丸山 結希帆
	南迫 奏太	峯永 岳志			
Contrabass	福田 凧佐	中田 梨花	吉田 智海*		
Harp	山内 悠里佳*				
Piano	原田 千明*				
Percussion	相川 拓音	浅井 惇	石井 梨菜	内田 光太郎	大島 一輝
	岡崎 颯太	鐺木 舜裕	古仲 咲希	竹内 夏美	田村 夢佑亜
	土居 祥太	林 まど子	廣瀬 歌菜	松田 陽大	松田 有平
	宮下 真凜	吉田 創	渡辺 歩紀		

*=演奏補助要員

企画運営責任者 瀬尾 宗利

バンドトレーナー 宍倉 晃

指導教員	秋田 孝訓	有馬 理絵	飯島 泉	池上 亘	石井 喜久子
	泉 真由	岩黒 綾乃	上間 義之	大貫 比佐志	宮村 和宏
	目等 貴士	小川 佳津子	小倉 貞行	小田桐 寛之	貝沼 拓実
	笠原 勝二	勝俣 秦	神代 修	小久保 まい	小林 祐治
	菅 貴登	田淵 哲也	田村 真寛	次田 心平	當仲 絵理
	中村 めぐみ	中山 隆崇	久永 重明	福田 昌範	本間 千也
	前田 綾子	松本 健司			

助手 助川 有里紗

アカデミック・コーディネーター 古川原 裕仁